

今後やろうと考えていること  
／今やっていること

東京大学東洋文化研究所

菅 豊

# 今後やろうと考えていること

- 『反・環境学—環境保全の「あたりまえ」を疑う』
  - プロローグ—反・里山論
  - 反・社叢論
  - 反・縄文ユートピア論
  - 反・供養論
  - 反・市民参加論
  - 反・環境美化論

# 今後やろうと考えていること

- 反・社叢論：すり替えられた森

- 「被置換了的森林—政治以及社会对日本信仰空間的影響」『文化遺産』2010年第2期（総第11期）（中山大学、2010.4.20）pp.124-129

- 「宮内科研」風に表現すれば...

- 明治神宮造営は、多元的価値、多元的目標のもとに、多様なステークホルダーが協働して順応的管理（？）を行った環境ガバナンス、自然再生事業
- その造営過程で、多様なステークホルダーの「ずれた」多元的な価値、複数のゴールが融合した
- 現在、それはさらに「ずらされ」ながら、現代的環境保全の文脈に再定置され、評価され、利用されている

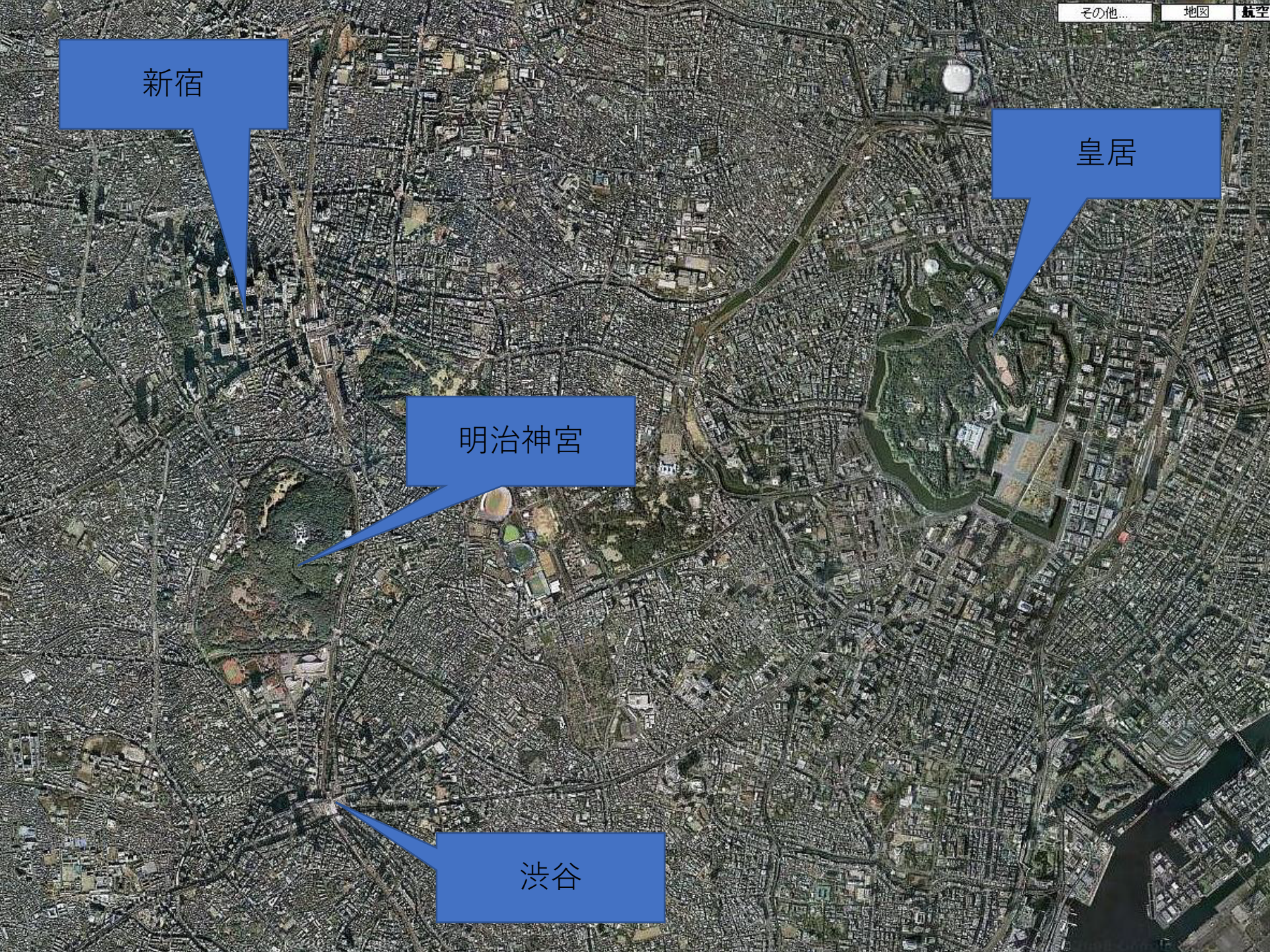


新宿

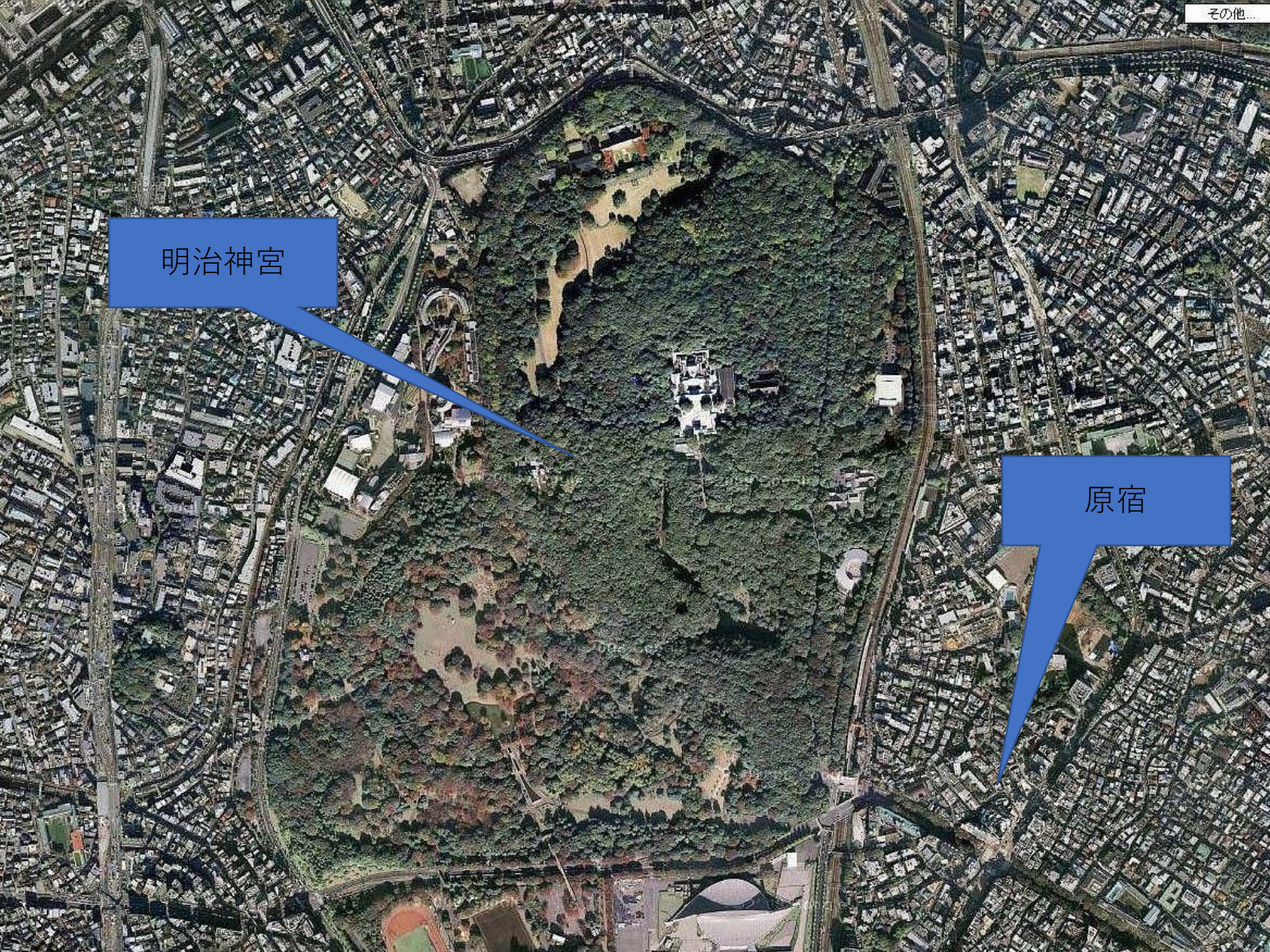
皇居

明治神宮

渋谷








明治神宮

原宿





明治神宮



# 民間の森から 国家の森へ

- 19世紀初頭、大名の屋敷
- 一本の樅（モミ）の巨木

- 『遊歴雑記』（十方庵敬順 1814）

- 当時、彦根藩主井伊家の屋敷に、非常に有名な樅の大木があり、根のところには洞があって常に水を湛えていたという。老いた巨木から滴るこの水は、目の病気に効果があるということで、近郷近在の老若男女は時折この屋敷に入って、神秘的な巨木を見物するとともに、その水を汲んで家にもらって帰り、治療に使った。
- その木は枯死。1952年に植樹。現在の明治神宮南参道





# 明治神宮の誕生

- かつて樅の巨木が健在だった頃、この地は、大部分は農地などで、特段、樹林地として適した場所ではなく、もともと貧弱な森しかなかった。
  - いまのような美しい森は、1912年の明治天皇の死去を契機として造られた。



# 明治神宮の誕生

- 「御陵墓ニ代ルベキ最モ近キ方法」 (明治神宮奉賛会 1932)
  - 有識者が東京への「神宮」建設を陳情
  - 1913年 (大正2) の衆議院で可決
    - 具体的に造営を計画する「神社奉祀調査会」設立
    - その調査会が、多くの候補地のなかからこの場所を選択
    - 「天然の趣を存したる幽邃森厳なる森林」 (庭園協会 1920) を造るという壮大な計画
  - 1915年 (大正4) : 「内務省明治神宮造営局」
    - 実際の計画・施工
    - 神宮には、神社としてもっともふさわしい、神聖な天然の更新にもとづいた「永遠の杜」の伝統イメージが採用
  - 1920年 (大正9) 11月1日鎮座祭



# 明治神宮の誕生

- その伝統イメージ
  - 森林自体を祭祀崇拝の対象とする在来の伝統的な民俗イメージと直結しない
    - むしろ、近代に入って新しく国家のイデオロギーによって再構成されたイメージ
    - この頃、日本の伝統的神社の森というものは、確固としたイメージが定まっていなかった

# 国家が創った聖なる森

- 現在の明治神宮の森の構成種は、植物社会学的な見地からいえば、極めて異常なほどに多い（松井光瑤ほか 1992）
  - 生物多様性の観点から現代的に高く評価！
  - いま遷移で「本来の自然」に戻っていることが高く評価！
    - しかし、現実には、この地方には存在しない樹種を含む365種にもものぼる木々を有する、「幻想の森」が、**幽邃、荘厳、神聖**という神社林イメージによって明治神宮の中に造り出された



# 国家が創った聖なる森

- 明治神宮内苑が、このように異常なほど樹種が多くなった理由は、造営時に全国各地より献木を受けたため。
  - 明治神宮造営局
  - 木の購入、他の国有地等から移植
  - 費用面と国民統治面で全国各地の国民から木を献納募集
    - 献木運動に全国より9万5千本以上もの木々
    - 神宮内苑の樹木全体の8割以上
    - 当時領土であった樺太（サハリン）や、台湾、朝鮮半島などの植民地、侵略の矛先を向けつつあった関東州（中国東北部）や北京からも献木
    - 盆栽もあった…



# 多様なステークホルダーと 多様な思惑



## • 市民

- 渋沢栄一らの有志委員会（実業家：陳情）
- 東京市民
  - 明治天皇への恋慕、首都東京のプライド
- 各地の青年団員（造宮奉仕）
  - 報徳主義、国家的倫理観の遂行、地方優良民のプライド

\* 自分たちで作り上げる森  
具体的なイメージは欠如か？





# 多様なステークホルダーと 多様な思惑



## • 政界

### • 大隈重信（神社奉祀調査会長、元首相）

- 古くからある伊勢神宮や日光東照宮のように、整然と並ぶ杉林を神聖な森としてイメージ
- すぎ、ひのき等ノ針葉樹林
- 多くの在来種を基礎として神社を造ることを主張した技術者・学者たちと意見対立
  - 最終的には、「科学的」根拠にもとづいた説得を受け入れ

\* 素朴で通俗的、一般的な伝統の森



# 多様なステークホルダーと 多様な思惑

- 官界（内務官僚＝いまでいう公共政策論者）

- 阪谷芳郎（東京市長）

- いのうえともいち井上友一（内務省明治神宮造営局長）

- 献木運動発案者、典型的明治官僚：愛郷心、国民教化

- 報徳社、通俗教育、感化救済事業、地方改良運動、青年団育成、都市計画（田園都市）、天然記念物・文化財保護、図書館・博物館・美術館構想、郷土史編纂、部落有林野統一事業、神社合祀令→南方熊楠、  
**柳田国男の先輩...**

- たざわよしはる田澤義鋪（内務省造営局総務課長）

- 青年団労働奉仕の発案者、後に青年団の父

- 青年団は後にずらされて大政翼賛団体になるにもかかわらず...

- 現在、国民ボランティアでできた森として高く評価！

\* ドイツ流の統治論：国民教化・統合の森



# 多様なステークホルダーと 多様な思惑

- **井上友一**（内務省**明治神宮造営局長**）

- 献木運動

- ドイツ古生物学者 フーゴ・コンヴェンツ

「天然物の保存は愛国愛郷心の発現で又其養成術である。森林其ものは已に其国の歴史である。之を保存して人民を接触せしむるのは国土と人民とを連結する一の鎖である。老樹は我々の祖先を語るべき忘れがたなき遺物であれば之を尊重するのは国民の義務である」井上<sup>p438</sup>

\* ドイツ流の統治論：国民教化・統合の森





# 多様なステークホルダーと 多様な思惑



## • 井上友一（内務省明治神宮造営局長）

### • 献木運動

国民参加の献木と伝統国家イメージの森が重要で、  
自然科学的な樹種選択などはどうでも良かった

### • 1903年神社局長時代、日光史跡保存での井上の訓示

- 「陳列場の周囲は、日光固有の植物を植え、成るだけ**荘厳なる天然の趣**を添ゆることとし、力めて人為の小公園たらしめざる様に注意しなければならぬ」

### • 1913年「神社奉祀調査会」

- 「**天然の趣を存したる幽邃森厳なる森林**」（庭園協会 1920）を造るという壮大な計画
- 明治神宮など国家の森作りを推し進めた井上は、神社合祀令による地方の森林（鎮守）破壊も同時に行った！

# 多様なステークホルダーと 多様な思惑

- 学界（科学者）

- 本多静六（林学者、東京帝国大学教授、造営局参与、日本の公園の父）
- 本郷高德（林学者、造営局高級技師）
- 上原敬二（造園学者、造営局技手、日本の造園学の父）  
→大隈を説得

- \* ドイツ流の科学的根拠（科学知）に基づく森

- 公害（煙）に耐えうる常緑闊葉樹（サクラやケヤキ、ブナ）  
を推奨
- 「**遷移**」という（頭のなかだけにある知識）科学理論の応用
- →内務官僚の献木運動に妥協できるずらす言い訳
  - 手つかずの「自然」＝聖なる「自然」
  - →現在、造園学・林学等で高く評価！

- \* 森の実験を神社造営に、ずらして国費で行った

- \* 古墳との類似性（上原）



# 明治神宮をめぐる順応的ガバナンス（？）

